

「10年後のありたい姿」は

市民と市役所がともに「ジブンゴト」ではじめる取り組みが、多様な人材や組織をひきつけ、共創が加速していること

です

この「ありたい姿」の実現には、

「おまかせ」にしない市民

- ・困りごとがあれば、まず、自分たちでできることを考える
- ・かしこまらず、負担が大きくなることができることに取組んでいる
- ・公共性や行政との関係について子ども・若者が自然に学び、関心を持ち、協力している。
- ・シニア世代を中心に各世代が地域や社会のなかで居場所と出番を持っている
- ・若者が独自のムーブメントや流行を生み出し、地域の魅力をつくっている

ジブンゴトとして挑戦する職員と市役所

志を軸に内外で連携する
スマートな市役所

- ・政策や施設の理念・志が風化せず、引き継がれている
- ・膨張しない「足したら引く」スリムでスマートな行政
- ・何でも引き受けるのではなく、すべきことに集中し外部のパートナーと連携して成果をあげる
- ・タテ割りでなく連携する市役所
- ・サービスがわかりやすく、選べる

発想豊かに挑戦する
オープンな職員

- ・職員自身が仕事をジブンゴト化している(副業も活発)
- ・職員が常に危機感を持ちながら仕事をしている
- ・民間や新参者に思い切って任せ、一緒にやってみる、文化が継承されている
- ・多彩な個性の職員がいて、職場としても人気

多様な人材と組織を
ひきつける地域

- ・地域課題やニーズが可視化され、オープン。関わり代が見える
- ・地域の担い手(個人・企業)が市内外から集まり、連携し、参画者にも地域住民にも成果が実感されている
- ・外部パートナーが移住や定住し、また、仲間を呼んでくる好循環がある

の実現が必要です

【ワークショップの概要】

- ・まちづくりにおいて重要なことは、困ったことがあれば、当事者として問題を解決しようとする姿勢である。小さなことでも、年齢に関係なく、自分以外の多くの人に関係する問題に関心を持ち協力する機会が豊富にあるため、それらをきっかけとして、役所任せにしない姿勢を持つ市民が育ってほしい。
- ・一方、市役所も、政策の目的や理念を自分の言葉にして、成果を出すために庁内や市役所以外の団体との連携を活発に行っている。行政が何でもやるという発想から、行政にだからこそできる、中間支援や人のつなぎ役などに集中し、より多くの成果を生み出せるようになってほしい。
- ・職員自身が仕事をジブンゴト化し、市民目線や受益者目線をもって良い結果ができるように工夫しながら仕事を行っている。また、副業も含めて、自身の趣味や仕事の幅を広げつつ、人脈や経験が本業にもプラスの効果をもたらしている。常に危機感をもっており、現状をよりよく改善していこうと挑戦したい。
- ・このような市民と市役所が、多様な人材と組織を引き付け、移住や事業連携が活発化し、まちを前進させてほしい。

分野⑩ 行政運営・協働参画

「10年後のありたい姿」は

(仮)行政や多様な人材の開かれた繋がりにから、取り組みが広がり進んでいる

なぜなら、私たちの目的は、行政と市民の境がなく地域課題の解決や市民生活の向上が実現していくことだから

です

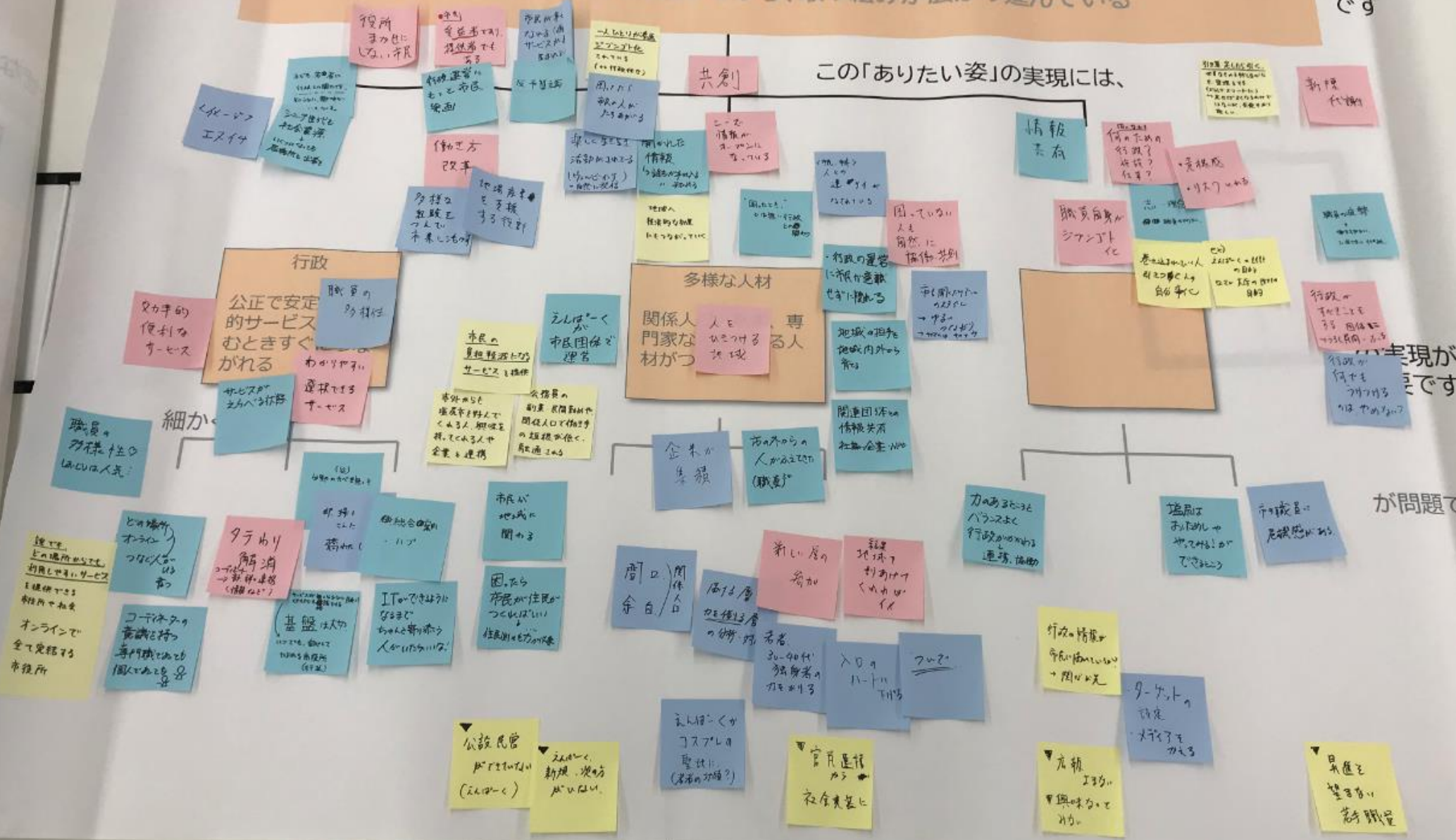
この「ありたい姿」の実現には、

共創

多様な人材
関係人
専門家
材が
あ
ら
う

行政
公正で安定
的サービス
むと
き
ず
ぐ
あ
ら
う

細か



実現が
遅く
です

が問題で